

# 令和元年度学校経営計画に対する最終評価

石川県立内灘高等学校

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果と評価	アンケート結果からの分析と課題
1 生徒一人ひとりの実態把握を通して、基本的な生活習慣の確立を図る。	① 積極的な声かけ・挨拶を通じて、円滑な人間関係の構築を図る。	授業の挨拶等ができた生徒の割合が A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	B 81.2%	「とてもそう思う」と回答した生徒の割合が7月に比べて増加した。生徒の自己評価はおおむね良好だが、教員や外部から見てどうなのかという視点を入れてもよい。
	② 無断欠席・遅刻防止のために、家庭との連携を密にするとともに、学校全体として「時間を守る」生活習慣を身につけさせる。	年間遅刻回数10回以上の生徒数が A 12名未満 B 12名～17名 C 18名～23名 D 24名以上	C 21名	昨年度より2名減少。生徒個別の事情で遅刻する場合もあり、それらを如何に減らしていくかが今後の課題である。
	③ 多様な生徒がいることを相互に認め合う環境作りに取り組む。	個別支援計画の案の作成が1学期末までに完成できたクラスが A 90パーセント以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	A 100%	計画案は作成できた。作成した計画を生徒の支援に有効活用したい。
	④ 人権尊重・いじめ防止に関するさまざまな課題に取り組む。	「いじめがなく安心できる学校である」と感じている生徒の割合が A 95%以上 B 90%～94% C 85%～89% D 85%未満	D 82%	中間評価より肯定的評価が6%向上したがまだ十分とはいえない。人権意識を高め、根絶へ向けて努力する必要がある。
	⑤ 自転車乗車マナーの向上を通じて、規律を尊重する態度を養う。	年間交通違反指導件数が A 9件未満 B 9件～10件 C 11件～12件 D 13件以上	D 15件	前年より2件減らすことができたがまだ不十分である。さらに交通安全に関する啓発をしなければならぬ。
学校関係者評価委員会の評価		概して、中間評価段階より向上しているがまだ不十分な部分もあり、よりしっかり指導していく必要がある		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法		基本的な生活習慣の定着は本校の教育の根幹である。過去と同じ指導を繰り返すのではなく、新しい指導方法を工夫していく。		
2 生徒の基礎学力定着に向けたICTの効果的活用法やアクティブ・ラーニングの視点に立った授業法などを学年や教科で共有し、効率的な授業力向上を図る。	① 基礎学力の定着のために授業の進め方や授業内容の工夫改善を図る。	授業がわかりやすいと感じた生徒の割合が A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	A 90.0%	授業のわかりやすさに対して非常に高評価を得られた。特に2年生からの評価が高かった。ただし、わかりやすいだけでなく本当の意味での学力がつく授業を行う必要がある。
	② 年間を通して、全教師が互いの授業を参観し、課題意識を持って授業改善に取り組む。	互見授業をした平均回数が A 10回以上 B 7～9回 C 4～6回 D 4回未満	C 5.5枚	参観シートの提出数が昨年度より大幅に少なかった。教務課としての呼びかけや工夫が不足していたと感じる。また、教員間の温度差も大きく課題が残る。
	③	ICTの活用や協働活動、双方向型授業などを取り入れて工夫が見られるとする肯定的評価が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	A 87.0%	「とてもそう思う」と回答した生徒の割合が7月に比べて少し増加した。学校内の教科や教員による温度差がなくなるよう、教務課として工夫したい。
	④ ワークライフバランスやタイムマネジメントの意識を常に忘れず、授業や分掌の業務を効率的かつ効果的に遂行する。	ワークライフバランスやタイムマネジメントを意識して業務に取り組んだ結果、時間外勤務を縮減できたという肯定的評価が A 95%以上 B 85%～94% C 75%～84% D 75%未満	C 80%	中間評価より肯定的評価が4%向上した。実際の超過勤務時間は昨年度に比較して一人月平均250分ほど減少しており、一定の成果は上がっていると考えられる。今後より一層業務の効率化に取り組んでいく必要がある。
学校関係者評価委員会の評価		授業がわかりやすいと感じている生徒が多いのはよいことだが、実際の学力の定着状況をしっかり把握する必要がある。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法		令和2年度に導入予定の教育プラットフォームを活用し、基礎学力の把握と定着に取り組んでいく。		

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果と評価	アンケート結果からの分析と課題
3 最新の進路情報の提供や同窓会との積極的連携により、社会人としての心構えを学び、早期から進路意識の高揚を図る。	① 3年間を見通した指導計画に基づき、能力・適性に応じた支援・指導を、外部人材の助力も得ながら行う。	進路意識が向上した生徒が A 85%以上 B 65%～84% C 45%～64% D 45%未満	B 79%	中間評価からは4%、A評価は34から47%向上したことは良かった。反省点として1年生への指導、保護者への対応が今後の課題であるので、学年団と連携し取組たい。
	② ハローワークや地域の企業等と連携して、就業の支援・指導を行う。	就職希望者の決定率が A 100% B 95%～99% C 90%～94% D 90%未満	B 95%	未決定者の2名の内1名は、専門機関に繋がっているため、今後支援を受けながら就職に決定していく予定。残りの1名は現在就職試験活動中である。
	③ 最新の進路情報を提供し、適性に合った進路実現につなげる。	進学希望者の決定率が A 100% B 95%～99% C 90%～94% D 90%未満	A 100%	今年度は1割の生徒が大学に進学することが決まった。今後は更に増加するよう指導していきたい。
学校関係者評価委員会の評価		全般的に高評価で取り組みが実を結んでいるようである。大学進学者の増加も心強く思う。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法		進学・就職とも好調であった。来年度はより系統的な指導体制のもとで、進路実績を向上させていきたい。		
4 地域から信頼され、必要される学校となるために、地域行事に積極的に参画し、地域防災にも貢献する態度を養う。	① 学校への関心・理解を深めるため、PTA総会や学校公開週間、文化祭等の参加者を増加させる。	来校者（保護者・地域の方・同窓生）の延べ人数が A 700名以上 B 650名～699名 C 600名～649名 D 599名未満  PTA総会の来校者数が A 50名以上 B 40名～49名 C 30名～39名 D 30名未満	D 586名  B 44%	内高祭の来校者数が大幅に減少したことがこの結果につながっていると考えられる。社会人講話の協力者を増やせなかったのも人数が減少した要因だと考えられる。  PTA総会は土曜日開催を継続したことで昨年度並みの参加者を維持することができた。いかに保護者の協力体制を構築できるかが重要である。
	② 地域活動へ積極的に参加するとともに、地域と連携した課外活動やボランティア活動・防災活動を企画・実践する。	地域に出向いて連携した活動の回数が A 30回以上 B 25回～29回 C 20回～24回 D 20回未満  参加生徒の延べ人数が A 1000名以上 B 900名～999名 C 800名～899名 D 800名未満	C 24回  C 864人	生徒会・軽音楽部・サッカー部・総務課によって比較的バランスよく連携の回数を重ねることができた。しかし、教員・生徒ともに意識の面で二極化が起きている感がある。それでは回数は伸ばせても人数は伸ばすことはできない。学校全体の気運を高めていきたい
	③ 地元中学校との交流を企画し、体験入学などを通して本校をPRする。	中学生の参加者数が A 750名以上 B 700名～749名 C 650名～699名 D 649名未満  地域の中学校との交流の回数が A 10回以上 B 8回～9回 C 6回～7回 D 6回未満	D 623人  C 7回	単発で大人数の交流が多く、継続的に行う交流の機会がなかった。何か新たなものを企画する必要がある。交流行事を実施しやすいのは部活動や生徒会か。
学校関係者評価委員会の評価		内灘高校は地域貢献、交流に努力していると思う。しかし特定の生徒に参加が偏るのは好ましくない。より多くの生徒を巻き込んでいく必要があるのではないかな。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法		いろいろな行事があるたびに、全校生徒にアナウンスをして参加者を広く募集するなどして、地域貢献・交流の裾野を広げていきたいと考える。		